

# 大阪府茨木市

## 中心市街地活性化基本計画概要(案)

【2期計画:令和7年4月～令和12年3月】

### 【目指す中心市街地の都市像】

茨木らしい幸せと豊かさを共感できるまちなか

【自治体の概要】 人口:285,715人(R5.12.31・住民基本台帳)、面積:76.49km<sup>2</sup>

- ・大阪府の北部、大阪都心から約15kmに位置し、国土幹線や広域幹線道路が通り、鉄道の利便性も高く、古くより交通の要衝として発展を遂げてきた。
- ・大阪万博開催に併せて駅前が整備され、高度経済成長期に現在の中心市街地が形成された。

### 【中心市街地の課題等】

#### 1)歩行者環境の改善と回遊性の向上が求められている

令和5年開館の文化複合施設・広場「おにクル」では多くの市民が集い、活動しているが、その賑わいをエリア全体へ繋げることや、歩行者空間の快適性・滞留性の向上が求められている。道路・沿道空間の魅力向上や環境改善等、中心市街地全体の回遊性を高める取組が必要である。

※歩行者通行量 R5:35,005人/日→R11:40,812人/日(5,807人の増加)

#### 2)居心地よく過ごせるサードプレイスが求められている

中心市街地における飲食店や広場等の休憩・滞留施設への市民ニーズが強い一方で、平均滞在時間は1～2時間と短い。一人でも居心地よく過ごせる個店や公共空間など、市民をはじめ多様な主体がまちなかを楽しみ、思い思いに過ごせる居場所づくりが引き続き求められている。

※新規出店数 R5:12.2店舗→R11:15店舗(累計75店舗の増加)

#### 3)多様な主体が活動できる場と仕組みづくりが求められている

本市中心市街地内には多数の公園や道路空間、低利用土地といった既存ストックが点在しているが、管理や安全上の問題から、利活用のハードルが高い。市民や民間事業者等の多様な主体が利用しやすい環境や仕組みづくり、新たに活動を始めたい人の支援等の取組が求められている。

※公共空間活用件数 R5:99件→R11:153件(54件の増加)

### 【計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	推計値	目標値
歩いて楽しい徒歩圏の実現	歩行者通行量	35,005人 (R5)	38,608人 (R11)	40,812人 (R11)
魅力的な都市空間の整備・誘導	新規出店数	12.2店/年 (R5)	12.2店/年 (R11)	15店/年 (R11)
多様な主体が使いこなせるまちなかの実現	公共空間活用件数※	99件/年 (R5)	123件/年 (R11)	153件/年 (R11)

### 【中心市街地活性化の方針】

#### 【歩行者空間等の環境改善】そぞろ歩きを楽しめるまちなか

安全・安心に移動できる歩行者空間の整備や、人と自転車を優先する交通ネットワークの再編、都市の可変性に対応できる柔軟かつ持続可能な都市づくりにより、ぶらぶら歩くと新しい発見があるまちなかの形成を目指す。

→目標:歩いて楽しい徒歩圏の実現【平日昼間の歩行者通行量】

#### 【都市機能の質の更新】お気に入りの場所があるまちなか

商店街をはじめ、中心市街地内への魅力的な個店の集積を促すとともに、民間事業者への支援と連携により魅力ある沿道空間の誘導や歴史と自然を生かしたまちなかの誘導を行う。

→目標:魅力的な都市空間の整備・誘導【計画掲載事業を活用した新規出店数】

#### 【賑わい創出】誰かと共感しあえるまちなか

市民が一人ひとりが主体となって使い方を考え、育てていく公共空間づくりや、まちなかで新たに活動・事業を始めたい人の支援、まちなかの情報発信などのソフトマネジメントの取り組みを進めることにより、多様な主体がつながり、共感しあえるまちなかの実現を目指す。

→目標:多様な主体が使いこなせるまちなかの実現【公共空間活用件数】

### 【前期計画目標と数値】

目標	目標指標	基準値	目標値
中心商業機能の質の更新	計画掲載事業を活用した新規出店数	8.4店/年 (H26～H30平均)	13.3店/年 (R1～R6平均)
滞在・活動の場の創出	平日昼間の歩行者通行量 (平日:9～17時)	27,438人/日 (H29)	30,712人/日 (R6)
	参考指標 公共空間活用件数※2	87件/年 (H30)	125件/年 (R6)

※1対象の公共空間:岩倉公園、中央公園、いばらきスカイハレット(R茨木駅東口駅前広場)、阪急茨木市駅西口駅前広場、おにクル(芝生広場・大屋根広場)、元茨木川緑地(中央公園北交差点～消防本部前交差点)

※2 対象の公共空間:岩倉公園、中央公園(北グラウンド・南グラウンド)、いばらきスカイハレット、阪急茨木市駅西口駅前広場

